PUBLICITY NEWS 91

学院広報
2015.5.7

平安女学院がマスコミに報道されました！！

平安女学院高校の特色ある取り組みを総合的に紹介—朝日新聞・まなビバ！(2015.4.11)

朝日新聞 2015年(平成27年)4月21日 火曜日 13版▲ 第2京都 28

「貴品女性」を育成

人々とふれ合い 慈しむ心を

まなビバ！ 教育2015

平安女学院高校（上京区）

国登録文化財が教室

中高連携し途上国に寺子屋

新聞記事から社会を考える

被災地忘れない「11円募金」

観光振興へ連携協定

市交通局と平安女学院大

京都市交通局と平安女学院大学の観光及び公共交通の振興に関する協定締結式

締結式に臨んだ平安女学院大の学生と門川大作市長（中央）ら＝中京区の京都市役所で

京都市交通局と平安女学院大（上京区）が、観光振興や駅のにぎわい創出、公共交通機関の利用促進活動などで連携・協力する協定の締結式が25日、京都市役所（中京区）であった。

平安女学院大国際観光学部の学生が、地下鉄駅周辺の観光地や店舗などの取材を元に編集する無料情報誌「キュンキュンKYOTO」を、今年7月から隔月で発行する。駅構内などで配布する予定。このほか、駅周辺を舞台にしたイベントも開催し、地域の活性化を目指す。交通局では「女子大生ならではの感性で駅周辺の魅力を発信してもらい、若者の地下鉄利用促進につなげたい」と期待している。【礒野健一】

毎日新聞
2015.3.28

地下鉄利用増と観光振興で協定

京都市交通局と平安女学院大

京都市営地下鉄の利用客増を目指す市交通局と、平安女学院大（上京区）はこのほど、地下鉄利用促進と観光振興に連携して取り組むための協定を締結した。学生らが地下鉄駅周辺の見どころを紹介する観光情報誌の発行や、駅での観光案内サービスなどに取り組む予定。

平安女学院大には市内で唯一の観光学部「国際観光学部」があり、学生は実学重視でもてなしの技術や観光学の研究、海外での語学習得などに取り組んでいる。

一方、経営再建中の地下鉄は、1日利用客数を2〇18年までに08年度比で5〇万人増やさなければ健全化は達成できない。好調な駅ナカビジネスや観光客の急増、通勤・通学客の公共交通利用への転換も狙み、13年度までに2万千人増えたが、まだ目標には届いていないのが現状だ。

両者はこれまでも地下鉄丸太町駅（中京区）の駅ナカ店舗開業時のセレモニーを学生が手伝うなどの関わりがあったことから、本格的に観光振興と増客に向け緊密に連携するため、協定を結ぶこととなった。

今後、学生がフィールドワークに基づき駅周辺の店舗や観光スポット、土産物などを紹介する情報誌「キュン〇キュン〇KYOTO」を7月から隔月で発行する。また、授業の一環として、外国人観光客を相手に駅での通訳や案内を行ったり、公共交通を使いながら修学旅行生を案内する取り組みなども想定する。

同大学の山岡景一郎学長は「学生の目から新たに京都の魅力を発信できる」と述べ、市交通局の西村徳局長は「学生の力も借りて利用者に楽しんでもらえる地下鉄にし、公共交通に乗る雰囲気を高めていきたい」としている。（小川卓宏）

観光振興と地下鉄利用増へ連携を誓う京都市交通局と平安女学院の関係者や学生ら（京都市中京区・市役所）

京都新聞
2015.3.28

地下鉄の駅と周辺を「観光」の観点から活性化—京都市交通局と連携協定を締結。夏には最初の観光ガイドブックの発行へ！